

保育職を目指す学生の継続的ボランティア体験と職能形成

Continuing volunteer experience and professional development for students that aiming for Pre-school teacher

多田琴子・高松邦彦

1. はじめに

保育現場では、近年特に保育者不足が喫緊の問題として取りざたされている。¹⁾ 保育者の早期離職も課題となり、様々な要因が絡み合っている。²⁾ 職員数が多くても少なくても「職場の人間関係」に問題を抱え³⁾、我が教え子の中でも1年間仕事を続けることがかなわず離職する卒業生が毎年複数人居る。離職後話を聞くと、異口同音で、職場の人間関係を挙げ、「自分で考えろと言われて計画案を提出しても、だめ出しをされる」「計画的に進めようとしても、方針が変わって計画通りに行かない」と述べている。新任保育者は、実践力不足⁴⁾から、子ども理解が十分でできずに計画を立てるため、子どもの実情に合わず、先輩の保育者から軌道修正を求められてしまう実態が予想される。

保育・教育実習において、実習生がどの程度子どもに関わらせてもらっているかも、実習園毎に差があり、実習が保育職を目指す学生の職能形成にプラスに繋がっていると言いがたい現状もある。また実習後、保育職希望から一般職希望に変更する学生も少なくない。保育の楽しさややりがいを感じる前に保育職への意欲を失ってしまう実情が無いとはいえない。

そこで実習前に、保育現場の職務内容や雰囲気を感じ、社会人としての基礎力⁵⁾や保育者の職能形成に必要な資質や能力の基盤となるものを身に付けられるよう、空きコマボランテ

ィアを試みた。本研究では、空きコマボランティア体験が、どのような学生の職能形成意識をもたらせたかを、振り返り記録より明らかにする。

2. 研究目的

空きコマボランティア体験が、学生の職能形成向上に關係するか振り返り記録より把握する。

3. 研究方法

本学独自科目「基礎研究演習Ⅱ」（2年生通年科目）において行った、実習・空きコマボランティアについてのアンケートと3年生で行う教育実習に持参する実習生プロフィールの「教育実習のめあて」をテキストマイニングにかけ、MBS・ネットワーク・頻出語の基礎資料を作成し、結果を考察する。

アンケートの設問は次の7つで、文字数制限はない。

- ①基礎研究演習Ⅱ見学実習からの学び
- ②基礎研究演習Ⅱ見学実習で身に付いたこと
- ③空きコマボランティアの内容
- ④空きコマボランティアで行った具体的行為からの学び
- ⑤空きコマボランティアで身に付いたこと
- ⑥自由記述
- ⑦実習生プロフィールの「教育実習のめあて」

※基礎研究演習Ⅱの見学実習は、60名の学生が

保育職を目指す学生の継続的ボランティア体験と職能形成

社会福祉施設全日3日・保育園実習全日3日・幼稚園実習全日5又は午前半日8日の内、一つの施設を学生が選んで見学実習を行った。

実習施設種別	実習園数	実習人数	実習時間
児童養護施設	2	8	24
障害者支援施設	1	1	24
幼稚園	4	14	24～35
保育園	7	37	24

※基礎研究演習Ⅱ見学実習期間は前期6月～9月

*空きコマボランティア期間は5月～翌年1月

*教育実習のめあて記入時期は3年生7月

※空きコマボランティアとは、学生が履修授業時間外で本学敷地内にある附属幼稚園にボランティアとして参加するもの。午前の保育時

間に参加した学生は保育を見ることが可能であるが、保育時間外に参加した学生は、園内整備や掃除、環境構成や壁面展示物製作が主なボランティア内容である。

※計量テキスト分析・テキストマイニングには、フリー・ソフトウェアであるKH Coder (Ver.3. Alpha.9) を用いた。

【倫理的配慮】

アンケート結果は個人が特定できない方法で取り扱うことを口頭で説明し、了解を得たものである。また、研究以外に使用しないことを書面で説明し、承諾を得ている。

表1 質問①基礎研究演習Ⅱ見学実習からの学び

順位	抽出語	回数	順位	抽出語	回数	順位	抽出語	回数	順位	抽出語	回数	順位	抽出語	回数
1	子ども	110	26	実習	8	51	たくさん	5	76	真似	4	101	泣く	3
2	環境	38	27	多い	8	52	園	5	77	動き	4	102	決める	3
3	遊び	35	28	年齢	8	53	過ごす	5	78	部屋	4	103	広い	3
4	保育	34	29	違う	7	54	絵本	5	79	片付ける	4	104	行う	3
5	構成	29	30	気持ち	7	55	危険	5	80	報告	4	105	行事	3
6	先生	28	31	姿	7	56	興味	5	81	名前	4	106	作り方	3
7	自分	21	32	時間	7	57	好き	5	82	様々	4	107	柵	3
8	遊ぶ	18	33	声	7	58	自発	5	83	様子	4	108	持つ	3
9	学ぶ	16	34	置く	7	59	自由	5	84	話	4	109	叱る	3
10	言葉	15	35	注意	7	60	身	5	85	話す	4	110	手	3
11	理解	15	36	壁面	7	61	製作	5	86	すべて	3	111	準備	3
12	掃除	14	37	保護	7	62	貼る	5	87	やる気	3	112	笑顔	3
13	大切	14	38	目線	7	63	発達	5	88	ケンカ	3	113	常に	3
14	子	13	39	挨拶	6	64	聞く	5	89	ブランコ	3	114	情報	3
15	考える	11	40	援助	6	65	毎日	5	90	リズム	3	115	信頼	3
16	子供	11	41	関係	6	66	グループ	4	91	ルール	3	116	心がける	3
17	見る	10	42	合わせる	6	67	トイレ	4	92	安全	3	117	生き物	3
18	行動	10	43	仕事	6	68	解決	4	93	意味	3	118	全然	3
19	周り	10	44	思う	6	69	学び	4	94	違い	3	119	他	3
20	生活	10	45	場所	6	70	関わり	4	95	園内	3	120	代弁	3
21	対応	10	46	成長	6	71	教える	4	96	外	3	121	読む	3
22	作る	9	47	接す	6	72	曲	4	97	感じる	3	122	配慮	3
23	仕方	9	48	同士	6	73	工夫	4	98	関わる	3	123	必ず	3
24	出来る	9	49	分かる	6	74	出す	4	99	机	3	124	必要	3
25	喧嘩	8	50	1つ	5	75	少し	4	100	気	3	125	表現	3

※抽出語上位150種類は1003語数であった。

※抽出語は「子ども」を示す文言が一番多く、「子ども」110回、14位に「子」13回、16位に「子供」11回が見られる。使い方としては、「○○な子や○○な子」や「その子や他の子」等の使い方が有り、1003語数中134回語が「子ども・子供・子」である。

表2 質問④空きコマボランティアで行った具体的な行為からの学び

順位	抽出語	回数	順位	抽出語	回数	順位	抽出語	回数	順位	抽出語	回数	順位	抽出語	回数			
1	子ども	57	26	補助	7	51	園	4	76	キレイ	3	101	成長	3	126	安心	2
2	壁面	43	27	ホッチキス	6	52	園児	4	77	コピー	3	102	積極	3	127	違う	2
3	保育	35	28	ボランティア	6	53	過ごす	4	78	テーブル	3	103	洗う	3	128	一度に	2
4	掃除	34	29	挨拶	6	54	過ごせる	4	79	リズム	3	104	全て	3	129	一番	2
5	環境	32	30	安全	6	55	絵の具	4	80	運動会	3	105	多く	3	130	衛生	2
6	作る	26	31	楽しい	6	56	関係	4	81	園内	3	106	大きい	3	131	園	2
7	大切	20	32	感じる	6	57	危険	4	82	音楽	3	107	誕生	3	132	歌	2
8	学ぶ	19	33	構成	6	58	教える	4	83	歌う	3	108	弾く	3	133	外	2
9	整備	15	34	行事	6	59	掲示	4	84	画用紙	3	109	入る	3	134	楽しめる	2
10	準備	14	35	作業	6	60	効率	4	85	角	3	110	配慮	3	135	楽器	2
11	仕事	12	36	子	6	61	細かい	4	86	学べる	3	111	必ず	3	136	観察	2
12	使う	12	37	子供	6	62	作り方	4	87	帰る	3	112	普段	3	137	気づく	2
13	思う	12	38	声	6	63	止める	4	88	気	3	113	方法	3	138	具体	2
14	先生	11	39	貼る	6	64	少し	4	89	気持ちよい	3	114	本	3	139	空く	2
15	仕方	10	40	保護	6	65	前	4	90	教室	3	115	遊び	3	140	形	2
16	考える	9	41	プール	5	66	窓	4	91	空き	3	116	遊ぶ	3	141	経験	2
17	自分	9	42	月	5	67	大変	4	92	型用紙	3	117	幼児	3	142	見本	2
18	清掃	9	43	工夫	5	68	棚	4	93	穴	3	118	良い	3	143	元気	2
19	見る	8	44	時間	5	69	注意	4	94	見える	3	119	量	3	144	言葉	2
20	行う	8	45	拭く	5	70	庭	4	95	作れる	3	120	練習	3	145	向ける	2
21	分かる	8	46	切る	5	71	内容	4	96	残る	3	121	1つ	2	146	行く	2
22	関わる	7	47	早い	5	72	壁画	4	97	手	3	122	コツ	2	147	行為	2
23	季節	7	48	多い	5	73	様子	4	98	場所	3	123	ゴマ	2	148	行動	2
24	知る	7	49	たくさん	4	74	綺麗	4	99	身	3	124	ザリガニ	2	149	砂	2
25	丁寧	7	50	カレンダー	4	75	きれい	3	100	制作	3	125	セロ	2	150	作り出す	2

※抽出語上位150種類は864語数であった。

表3 基礎研究演習Ⅱ見学実習で身に付いたこと

順位	抽出語	回数	順位	抽出語	回数	順位	抽出語	回数	順位	抽出語	回数	順位	抽出語	回数	順位	抽出語	回数
1	子ども	48	26	遊ぶ	4	51	立つ	3	76	授業	2	101	話	2	126	音	1
2	挨拶	16	27	力	4	52	たくさん	2	77	少し	2	102	話す	2	127	何事	1
3	大切	12	28	コミュニケーション	3	53	リズム	2	78	笑顔	2	103	綺麗	2	128	解決	1
4	言葉	10	29	ヒント	3	54	会話	2	79	場	2	104	〇〇	1	129	覚える	1
5	先生	10	30	意識	3	55	楽しい	2	80	園工	2	105	1つ	1	130	掛け	1
6	保育	10	31	援助	3	56	楽しむ	2	81	清掃	2	106	お礼	1	131	割り込む	1
7	仕方	9	32	音楽	3	57	感じる	2	82	生活	2	107	きれい	1	132	活動	1
8	声	9	33	関わる	3	58	気持ち	2	83	待つ	2	108	ご飯	1	133	噛む	1
9	行動	8	34	危険	3	59	技術	2	84	大変	2	109	ほか	1	134	観察	1
10	積極	8	35	教える	3	60	喧嘩	2	85	努力	2	110	イラ	1	135	含む	1
11	見る	7	36	見える	3	61	見渡せる	2	86	動く	2	111	カウントダウン	1	136	基本	1
12	自分	7	37	見守る	3	62	言う	2	87	年齢	2	112	ケガ	1	137	寄り添う	1
13	対応	7	38	広い	3	63	午睡	2	88	発達	2	113	ケンカ	1	138	帰る	1
14	学ぶ	6	39	構成	3	64	向ける	2	89	反応	2	114	タイミン	1	139	気づく	1
15	聞く	6	40	考える	3	65	好き	2	90	範囲	2	115	ドア	1	140	泣く	1
16	環境	5	41	行く	3	66	行う	2	91	分かる	2	116	メモ	1	141	距離	1
17	周り	5	42	子	3	67	合う	2	92	並ぶ	2	117	悪い	1	142	協調	1
18	身	5	43	子供	3	68	合わせる	2	93	壁面	2	118	安全	1	143	教材	1
19	目線	5	44	常に	3	69	今	2	94	補助	2	119	位置	1	144	近い	1
20	ボランティア	4	45	掃除	3	70	作り方	2	95	方法	2	120	意味	1	145	掲示	1
21	関わり	4	46	多い	3	71	使う	2	96	約束	2	121	違う	1	146	嫌がる	1
22	気	4	47	知識	3	72	思う	2	97	幼児	2	122	育つ	1	147	見つける	1
23	元気	4	48	伝える	3	73	自己	2	98	様子	2	123	一緒	1	148	言い回し	1
24	作る	4	49	必要	3	74	自然	2	99	理解	2	124	応じる	1	149	個人	1
25	接す	4	50	遊び	3	75	実習	2	100	冷やす	2	125	温める	1	150	向き合う	1

※抽出語上位150種類は448語数であった。

表4 空きコマボランティアで身に付いたこと

順位	抽出語	回数	順位	抽出語	回数	順位	抽出語	回数	順位	抽出語	回数	順位	抽出語	回数			
1	壁面	23	26	元気	3	51	作れる	2	76	良い	2	101	絵の具	1	126	見れる	1
2	子ども	22	27	細かい	3	52	雑巾	2	77	あいさつ	1	102	階段	1	127	見栄え	1
3	掃除	21	28	思う	3	53	子	2	78	お礼	1	103	学び	1	128	見逃す	1
4	挨拶	12	29	自分	3	54	子供	2	79	きれい	1	104	活動	1	129	見本	1
5	考える	10	30	拭く	3	55	次	2	80	しかた	1	105	活用	1	130	向ける	1
6	作る	9	31	制作	3	56	周り	2	81	すべて	1	106	乾く	1	131	控えめ	1
7	仕方	9	32	積極	3	57	出来る	2	82	それぞれ	1	107	関わる	1	132	考え方	1
8	大切	9	33	切る	3	58	情報	2	83	やり遂げる	1	108	含む	1	133	行く	1
9	身	8	34	前	3	59	心がける	2	84	やる気	1	109	頑張れる	1	134	行事	1
10	大変	7	35	窓	3	60	整備	2	85	アイデア	1	110	危ない	1	135	合う	1
11	保育	7	36	綺麗	3	61	清掃	2	86	アイデア	1	111	危険	1	136	今	1
12	環境	6	37	コソ	2	62	声	2	87	コピー	1	112	機会	1	137	細か	1
13	行動	6	38	ゴマ	2	63	接す	2	88	サイズ	1	113	帰る	1	138	作業	1
14	作り方	6	39	ホッチキス	2	64	速い	2	89	シアター	1	114	気	1	139	使い方	1
15	仕事	6	40	ボランティア	2	65	知る	2	90	スムーズ	1	115	気づ	1	140	使う	1
16	笑顔	6	41	画用紙	2	66	丁寧	2	91	テーブル	1	116	協力	1	141	指示	1
17	楽しい	5	42	学ぶ	2	67	貼る	2	92	パネル	1	117	興味	1	142	持つ	1
18	見る	5	43	感じる	2	68	動く	2	93	プログラム	1	118	近く	1	143	時間	1
19	先生	5	44	観察	2	69	洞察	2	94	ホチキス	1	119	傾ける	1	144	耳	1
20	多い	5	45	季節	2	70	把握	2	95	ワクワク	1	120	型紙	1	145	自ら	1
21	工夫	4	46	空き	2	71	配慮	2	96	援助	1	121	型通り	1	146	自主	1
22	少し	4	47	隅々	2	72	付く	2	97	応答	1	122	形	1	147	実習	1
23	常に	4	48	言葉	2	73	分かる	2	98	過ごす	1	123	決める	1	148	実用	1
24	方法	4	49	効率	2	74	壁画	2	99	過ごせる	1	124	見える	1	149	手作り	1
25	力	4	50	構成	2	75	落ち葉	2	100	会話	1	125	見つける	1	150	手順	1

※抽出語上位150種類は394語数であった。

※抽出語上位2の「子ども」と、53位「子」54位の「子供」合計すると26回であることが分かる。

4. 結果と考察

1) 語の抽出と頻出語の確認

語の抽出設定は150単語とした。今回は、前期短期実習後の学び①と身に付いたこと②、通年を通して行った空きコマボランティア後の学び④と身に付いたこと⑤の比較を行う。

2) アンケート①と④のネットワークを比較する。

a) 質問①の共起ネットワーク図(図1)から次のようなことが読み取れた。

抽出語のトップ上位、「子ども」「環境」「遊び」「保育」「構成」は大きな○で示され重なりがある。図1「基礎研究演習Ⅱ見学実習からの学び」共起ネットワークでは、核として

赤色ではないが、「基礎研究演習Ⅱ見学実習からの学び」多次元尺度(data not shown)からは中心に位置することが読み取れる。図1～4における共起ネットワークの解析結果では、出現数の多い語ほど大きいノード(頂点)で描画されること、共起関係が強いほど太いエッジ(線)で描画されること、ブルーから濃いピンクになるほど媒介中心性の高いノードであると定義する。媒介中心性とは、その語が欠落した場合、ネットワークの全体の統一性を欠いたバラバラの構造になることを表しており、簡単に言えばネットワークの構造上重要な役割を果たしている単語である。

4つ以上の言葉が繋がり、グループとなっているものは、5つある。

①の子どもに重なっているグループからは、子どもを中心に環境構成をすることや、保育は遊びを通して行うものであることなど、保育の基本を意識していることが読み取れる。

②は、対象児理解として発達に着目し、年齢によって発達が全然違うことを実感している。目線を合わせて子どもに関わったり、笑顔で挨拶をしたりして話すきっかけを作り様子を見ようとしている学生の態度が伺える。

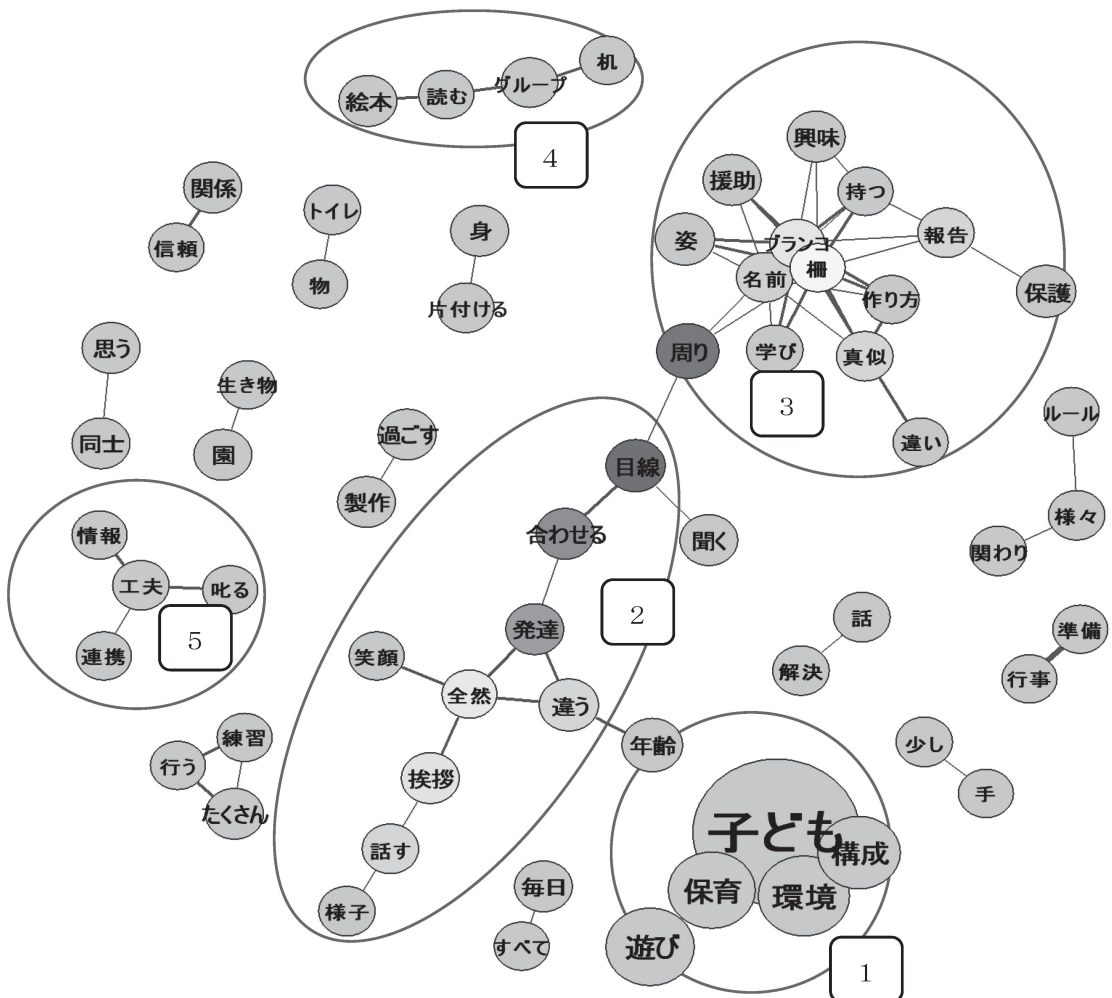
③からは、ブランコが核になっていることか

ら、子どもがブランコに興味を持っていること、安全対策として柵があること、しっかりブランコを持つ子どもの姿や名前を呼んで援助することなどの配慮を学んでいる事が分かる。

④からは、グループ毎の机に絵が貼ってあり、絵本を自分の机で読んでいる事実に気付いている。

⑤から、保育者が情報を共有し、叱ることに對しても連携を取る工夫をしていると学んでいることが読み取れる。

図1 「基礎研究演習Ⅱ見学実習からの学び」共起ネットワーク図



壁画（学生の言葉選択ミスで、保育現場では壁面という）を見るので、行事の前に壁面を構成し直す準備作業を行う必要があり、意識してその役割を担っている事が把握できる。

また、園庭（ネットワーク図では園・庭に分かれている）の掃除道具の場所や掃除の仕方・製作の仕方など身に付けて行いたいという気持ちも読み取れる。

③は、空きコマボランティアで、多くの量の壁面を作るときは、重ねてホッチキス止めをして切ると良いことを学んだり、丁寧な作業をすること、普段の関わりから、子どもがいろいろなことを教えて（話して）くれたりするとこに気付いている。

④は、壁面作りの技術についての学びをしていることが分かる。型紙を用いると効率が良い。画用紙の角を丸くするときれいに出来る。テープの止め方も剥がし方も跡が残らないようきれいにする。パンチで穴を開けるときは作品を傷つけないよう注意する。等である。

⑤は、引き歌いの技術に関する学びで、歌を歌うときは、必ず園児の方を見てピアノを弾き、歌っている子の表情を見るために体を少しずらしながらピアノを弾くのは難しそうだと記述がある。

⑥からは、子どもへの声のかけ方に着目していることが分かる。音楽会の練習中、補助をしたときに、リズムの取り方や打ち方を子どもに尋ねている保育者の子どもへの声のかけ方から、どう声をかければ良いか考えたり、分かったりしていることが読み取れた。

⑦からは、子どもが楽しく過ごせるために、掃除や準備は大変だけれど、環境を整えることの大切さを学んだ。とある。つまり保育者の仕事は大変だけれど、子どもの楽しい様子を見ることの充実感も味わっていることが読み取れる。

⑧は、環境作りの時間短縮の技術についてである。キレイにたくさん作成する方法は、本をコピーすると良いことを、実践を通して学んでいる。

⑨は、3つの実践技術の学びが読み取れる。1つは、同じ形に紙を切る作り方は、ホッチキスで止めて切ると良いことを先生から学んでいる。2つ目は、子どもが気持ちよく過ごせるように窓は丁寧に拭く事が大切だと気付いている。3つ目は、絵の具を使った後の片付けで、次使うときのことを考えてキレイに洗う必要があることに気付いている。

c) a) b) を比較し考察する。

基礎研究演習Ⅱの実習は前期中である。さらに、実習形態が施設園毎に異なることを考慮する必要がある。このことを踏まえて考察する。

a) には、5つのグループがある。保育者の職能形成の基盤となる、保育の基本となる理念や、対象の年齢や発達理解の大切さ、職員の情報共有などについての学びコメントが3つある。具体的な子どもの姿や援助については2つのグループがある。

b) には、9つのグループがある。子どもを中心にした①以外の8つ全てが保育の具体的技術についてである。

見学実習では、保育者の保育行為を見学し、客観的に保育全体を見ていることが把握できる。空きコマボランティアでは、環境構成、特に壁面作り技術についての学びが多く、次に環境整備（掃除・片付け）についての学びを挙げている。

このことから、見学実習と空きコマボランティアの学びの質は異なり、客観的理念の学びと具体的技術の学びといえる。

保育職を目指す学生の継続的ボランティア体験と職能形成

2) アンケート②と⑤のネットワークを比較する。

a) 質問②の共起ネットワーク図(図3)から次のようなことが読み取れた。

4つ以上の言葉が繋がり、グループとなっているものは、3つある。

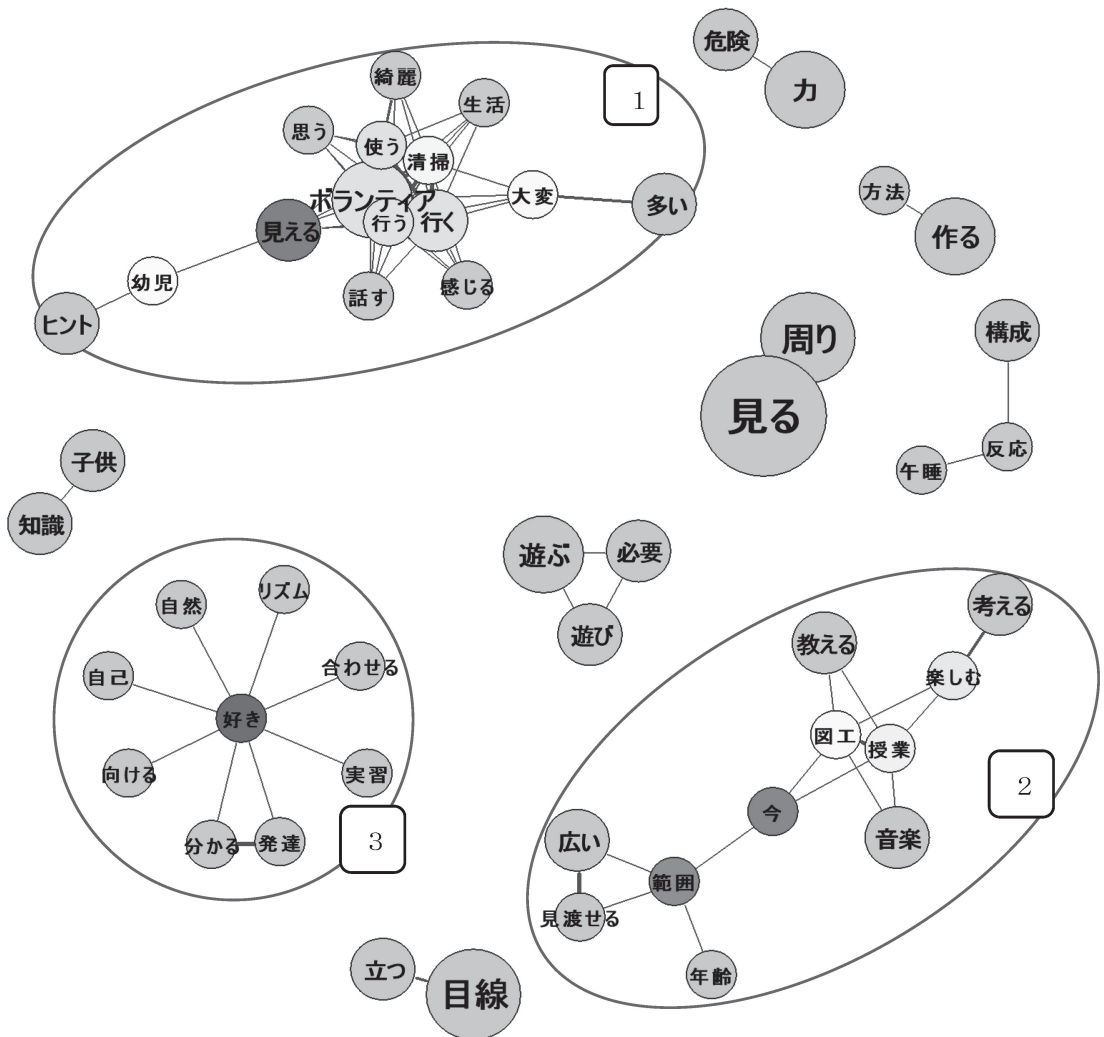
①からは、空きコマボランティアに行くことが、実習に活かされたと読み取れる。学生コメントは、「積極的に感じたり思ったりしたことを話すことが大切だが、学生生活で使っている

言葉を使わないようにすることなど、大変なことが多い」「保育者の援助は、幼児がよく見えているから、ヒントを出す言葉がけが出来ている」等である。

②からは、図工や音楽などの授業を教えてもらう側で聞いていたが、実習に行くことで、教える側として受講するようになった。

今までの自分とこれからの自分を俯瞰し、子どもが楽しめるように、年齢や好み等広い範囲

図3 「基礎研究演習Ⅱ見学実習で身に付いたこと」ネットワーク図



を見渡して、考える力がついたと捉えている。

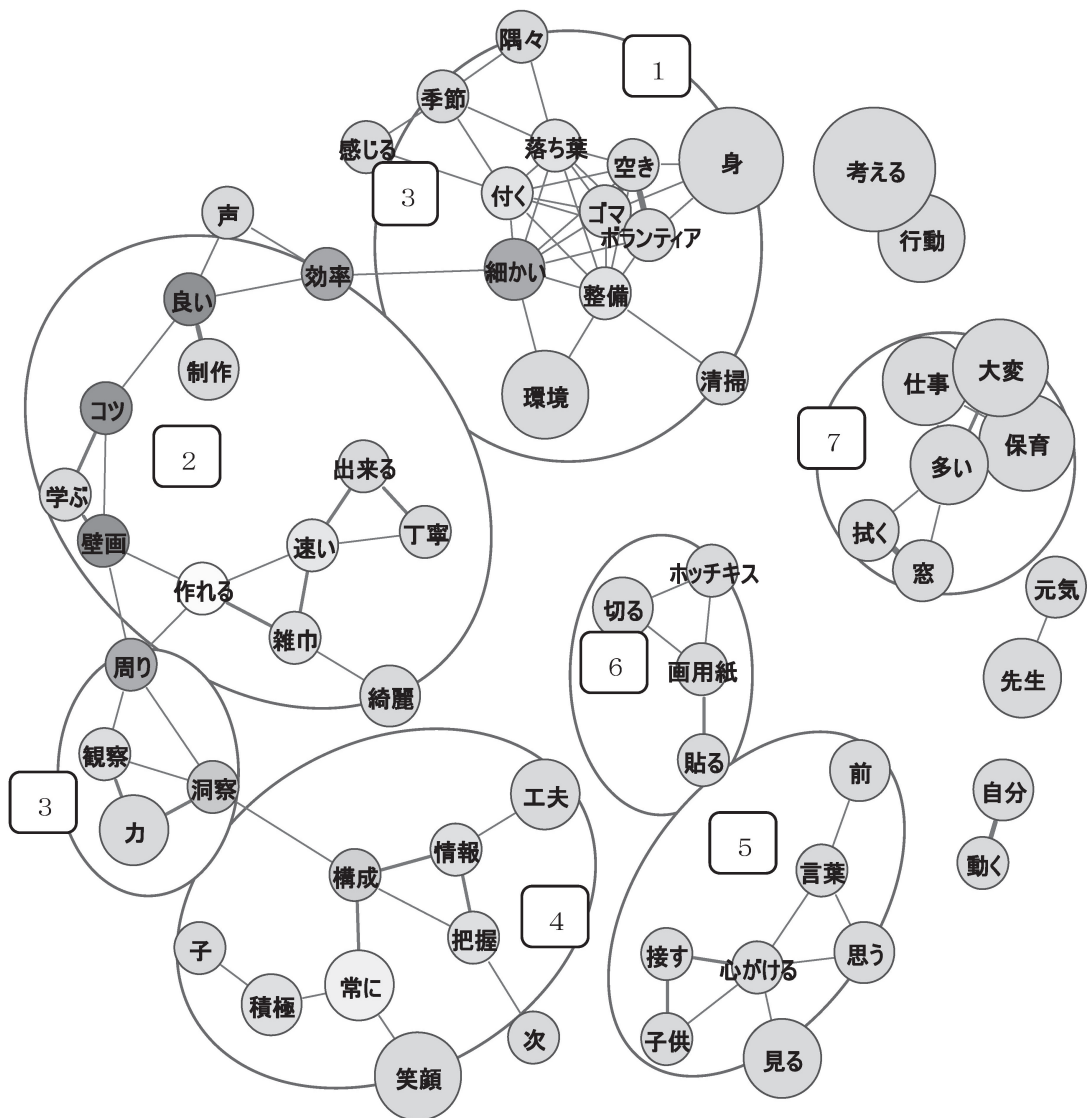
③からは、子どもはリズムで遊ぶのが好きで自己主張をする。また、自然からも学んでいる。と自身の学びを把握している。また、子どもと目線を合わせ、発達を分かろうと関わり、周りに目を向けること意識して実習していることが分かる。

b) 質問⑤の共起ネットワーク図(図4)からは次のようなことが読み取れた。

4つ以上の言葉が繋がり、グループとなっているものは、7つある。さらに1~4まで核となる言葉の繋がりがあがる。ほとんどが保育技術に関することである。

①からは、空きコマボランティアで身に付いたこととして、環境の清掃・整備を挙げている。

図4 「空きコマボランティアで身に付いたこと」ネットワーク図



隅々の細かいところ迄見て、落ち葉を集めながら、季節を感じる力が身に付けたことが読み取れる。

②からは、2つの事が読み取れた。効率良く壁画（壁面のこと）を作れる、製作のコツを学んだこと。丁寧に綺麗に速く雑巾がけが出来るようになったこと。

④からは、次の活動を考えながら、職員同士情報を、把握する工夫をし、常に笑顔で子ども積極的に接することを身に付けたと思っていることが分かる。

③からは、周りを見て観察する力、洞察力が身に付いたこととしてあげている。

①、②、③、④が繋がっていることから、複数の学生が同じように、環境整備に関する事、壁面製作に関する事の技術について、周りを見て学ぶことができるようになったことを示している。さらに、子どもの前に立つときの表情や、職員同士情報を共有することの大切さにも気付いていると読み取れる。

⑤からは、子供と接するときは、よく見るように心がけ、一人一人に合った言葉がけが大切だと思った。ことが読み取れる。

⑥は、製作技術が身に付いたことが分かる。複数枚の画用紙をホッチキスで止めてズレないようにして切ると効率が良いこと。画用紙は隅まで糊をつけ貼ること。等である。

⑦からは、保育者の仕事の多さへの気付きである。任された窓を拭くことだけでも大変なのに、保育者の仕事内容はとても多く、それを身に付けることの大変さへの気づきが読み取れる。

c) a) b) を比較考察する。

a) には、3つのグループがある。①は、空きコマボランティアからの学びを実習に活かすという、体験的学びをしていることが把握でき

る。②は教えを受ける身から、教える立場に変わるという自己変革意識が伺える。子どもの発達を踏まえて対象理解をし、自己変革をすることが大切だという価値観を身に付けたことが分かる。③からは、子どもの目線に立つことや周りを見ることが大切なこと、子どもに関する知識や方法（遊びを含む）をもつ必要感を感じていることが分かる。

b) には、7つのグループがあった。①、②、⑥は保育技術についての意識、③、④、⑤は周り（子どもを含む）を見て、他者と協働することについての意識、⑦は、現在の自分を俯瞰し子どもの前でどのようにあるべきか自己分析している姿があるといえる。⑦は、保育者の仕事量・範囲についてのコメントから、保育者の職務内容を体験から肌で感じ取っている姿と捉えることが出来た。

「身に付いたこと」としての実習とボランティアの違いは、やはり保育技術である。短期間の実習では、大学で学ぶことの意味に気づき、ボランティアでは、保育現場の仕事量や仕事範囲、具体的保育方法などが意識化されていることが把握できた。

3) 保育職を目指す学生の職能形成意識の把握

1) 2) の共起ネットワーク図を考察することで職能形成意識として捉えた視点は次の通りになった。

1) の a) 「基礎研究演習Ⅱ見学実習の学び」からは、次の3点が把握できた。

- ・保育の基本となる理念の把握
- ・対象の年齢や発達理解
- ・職員の情報共有

1) の b) 「空きコマボランティアからの学び」からは1点把握できた。

- ・保育技術

2) の a) 「基礎研究演習Ⅱ見学実習で身に付いたこと」からは次の4点が把握できた。

- ・ 体験的学び
- ・ 自己変革意識
- ・ 保育の知識
- ・ 保育の方法

2) の b) 「空きコマボランティアで身に付いたこと」からは、4点把握できた。

- ・ 保育技術
- ・ 協働性
- ・ 保育職務内容、範囲
- ・ 保育方法

このことから、見学実習で学生が意識することは、知識や技術の必要性であり、保育の本質ではあるが具体的ではないことが分かる。一方空きコマボランティアでは、保育技術を中心に具体的行為態度を身に付けていることが分かる。さらに、保育者の協働性についても肌感覚で必要感を意識していることが把握できた。

5. おわりに

空きコマボランティア活動をはじめのきっかけは、昼過ぎに「おはようございます」という学生の多さに、実習前に身に付けておくことが望まれる資質や技能がある、と感じたことにある。友達とでも電話で話す機会が無くなっている現在、改まって面識のない相手と話さなければならない実習先に電話することは、学生にとって高いハードルである。保育者になる前に少しでも生活力を身につけておく機会として空きコマボランティアを附属幼稚園に依頼したことから始まる。

通年で10回の空きコマボランティア終了後アンケートをとり、生活力向上が見られるか検討する見通しをもって行った。⁶⁾ 学生の回答は、保育者になる自己意識からの回答であり、空き

コマボランティア体験は職能形成を意識したものであった。

保育者としての職能意識は、空きコマボランティア体験だけで形成されるものではなく、当然のことではあるが、大学の保育者養成カリキュラムとの相互作用の中で形成されていることが把握できた。学生が保育職を目指す自己意識をもって授業を受けることが、空きコマボランティア体験に生きていることも分かった。

今後の課題は、継続的ボランティア体験が学生自身の職能形成作りに繋がることを自覚する機会、自己分析をする機会、自己変革に繋げていける機会として授業の中に組み込んでいくことにある。附属幼稚園との連携を密接にしながら、場と機会をつくっていききたい。

【引用参考文献】

- 1) 厚生労働省「保育士確保集中取組キャンペーン」（全体版）2017
- 2) 厚生労働省「第1回保育士等確保対策検討会 資料4」2015
- 3) 株式会社ポピンズ 平成23年度厚生労働省委託事業 潜在保育士ガイドブック—保育士再就職支援調査事業・保育園向け報告書 2011
- 4) 松尾由美「保育士の早期離職を防ぐためのキャリア教育—キャリアプランニング能力の育成を目的とする問題解決シミュレーションゲームの提案—」江戸川大学の情報教育と環境14 2017
- 5) 経済産業省「社会人基礎力説明資料（3つの能力/12の能力要素など）」2013
- 6) 多田琴子「保育者を目指す学生の生活力向上への試み」第71回日本保育学会2018